

問題解決のメタ認知活動モデルにおける情動支援の位置付け

2019/10/24 福岡克也

本日の概要

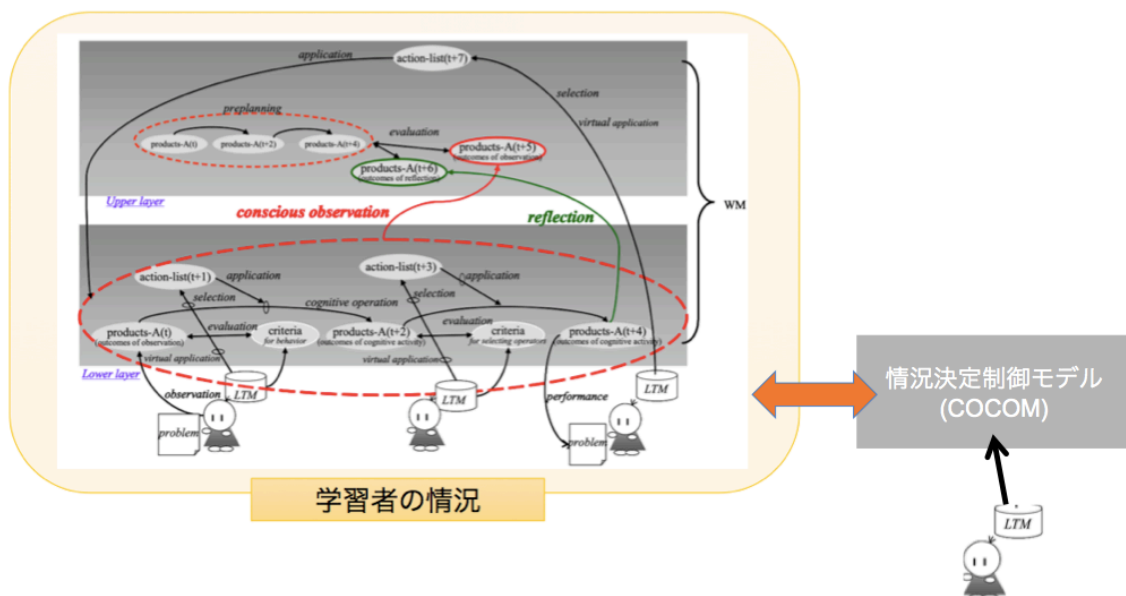
問題解決のメタ認知活動モデル^(茅島)において、認知レベルでは情動がどのように関わってくるのか、その中でも自身は学習者のどのスキルを支援したいのかを明確にすることで、研究の有用性・実現可能性の観点から卒論のテーマ決定の方針を立てることを目標とする

前回の MT を受けて

今まではプランニングの支援をシステムレベルで考えていたが、一度、プランニングを「認知レベル」「メタ認知レベル」「情動レベル」に分けてモデリングし直すことで、自身が支援したい能力を明確にしようと考えた

研究目的：認知活動のプランニングにおける学習者自身の情動制御スキル育成

(まだ学習者が混乱状態の時システムを利用するのかという問いに答えられていない)



学習者の状況は状況を決定するパラメータによって変化する

学習者の状況は学習者の認知活動全てに影響すると考える

混乱状態における認知活動の難しさ例

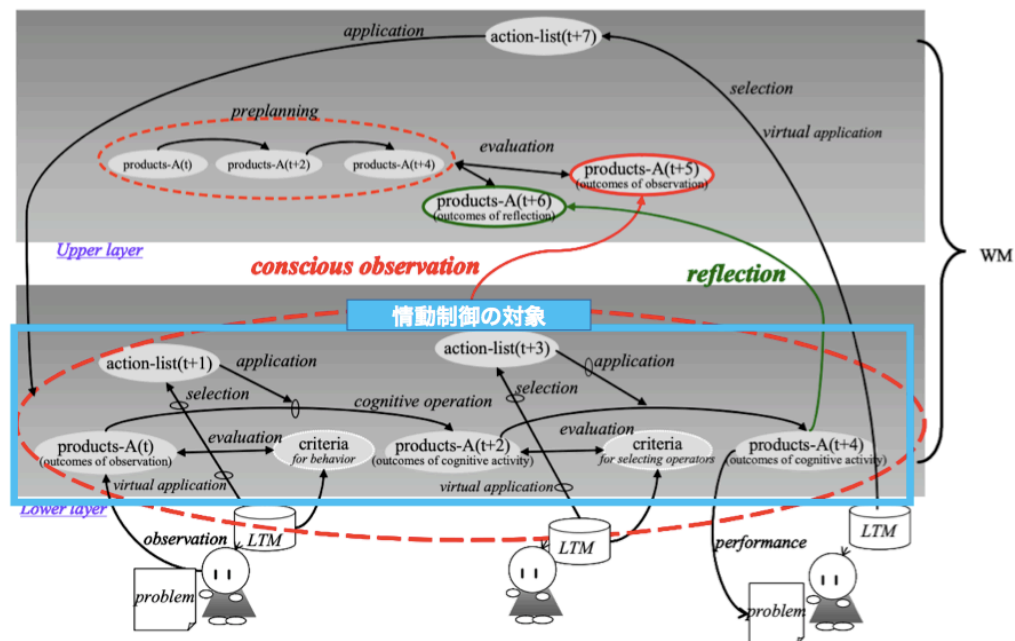
selection: 適切なオペレータを選択できない

application: どれを適用すべきかわからない

問題解決のメタ認知活動モデルにおける情動支援の位置付け

2019/10/24 福岡克也

Upper layer での認知活動は学習者が常に冷静な状況にある前提と考え、支援を考慮しない
よって、本研究の対象は認知活動レイヤーでのプランニングにおける状況の制御である



また、状況をコントロールしながら問題解決した際の解決プロセスは
Preplanning との差から評価し、リフレクションを行うことで学習者は
状況決定制御方略を獲得する

